

政策体系	政策No.	1	政策名	にぎわい(産業の活力があふれ、交流と賑わいが生まれるまちづくり)	施策幹事課	観光PR課			
	施策No.	4	施策名	地域特性を生かした観光の推進	施策幹事課長名	實徳 太			
施策関係課名		地域政策課、商工振興課、商工観光施設課、霧島ジオパーク推進課							
1 基本計画期間(2018年度～2022年度)における施策の方針									
<p>大自然に恵まれた、魅力あふれる「観光地・霧島」という認識を市民と共有し、国内外の観光客に「選ばれる」「また訪れたい」観光地づくりを目指します。</p> <p>そのため、観光客のニーズに合った観光素材の創出や活用、インターネットなどによる効果的な情報発信を推進します。</p> <p>また、「観光地・霧島」としてのブランド戦略を明確にし、市民、地域、観光関係者一体となったおもてなしや安心して快適な観光地づくりを展開します。</p>									
2 施策の成果把握									
①成果指標 (意図の達成度を表す指標)		◎目標達成(100%以上)      △目標を未達成(100%未満)					目標達成の方向性		
		単位	区分	2018年度	2019年度	2020年度		2021年度	2022年度
A	霧島市の観光に対する満足度	%	成り行き値	56.0	56.0	56.0	56.0	56.0	更なる増加を目指します
			目標値	57.0	58.0	59.0	60.0	61.0	
			実績値						
			達成率						
			結果						
B	観光消費額	百万円	成り行き値	66,717.0	66,717.0	66,717.0	66,717.0	66,717.0	更なる増加を目指します
			目標値	67,627.0	68,303.0	68,987.0	69,677.0	70,373.0	
			実績値	66,395.7	65,470.0	44,794.0			
			達成率	98%	96%	65%			
			結果	△	△	△			
C	観光客数(宿泊+日帰り)	人	成り行き値	7,567,900	7,567,900	7,567,900	7,567,900	7,567,900	更なる増加を目指します
			目標値	7,720,000	7,797,200	7,875,200	7,954,000	8,033,500	
			実績値	7,606,885	7,489,312	5,178,046			
			達成率	99%	96%	66%			
			結果	△	△	△			
D	外国人宿泊客数	人	成り行き値	110,900	110,900	110,900	110,900	110,900	更なる増加を目指します
			目標値	134,200	147,620	162,382	178,620	196,500	
			実績値	138,838	125,995	17,408			
			達成率	103%	85%	11%			
			結果	◎	△	△			
E	開発又は磨き上げた観光資源の数(累計)	本	成り行き値	43	43	43	43	43	更なる増加を目指します
			目標値	47	49	51	53	55	
			実績値	51	53	53			
			達成率	109%	108%	104%			
			結果	◎	◎	◎			
② 成果指標の測定方法 (実際にどのように実績を把握するか)				③ 2022年度の目標値設定の考え方					
<p>A 霧島市の観光に対する満足度 ※観光総合戦略策定時に、「霧島市観光動向調査」を実施し、現状値を把握。次期、観光総合戦略策定時(2022(令和4)年度)、再度調査を実施し、実績値を把握予定。</p> <p>B 観光消費額 ※観光客一人当たりの消費額×観光客数(宿泊+日帰り) ※観光客一人当たりの消費額とは:観光客数に消費額単価(宿泊29,000円、日帰り6,000円)を乗じた額。</p> <p>C 観光客数(宿泊+日帰り) ※暦年(1月～12月)での実態を把握。 ※観光施設、ホテル、旅館等宿泊施設からの取得データ。</p> <p>D 外国人宿泊客数 ※暦年(1月～12月)での実態把握。 ※ホテル、旅館等宿泊施設からの取得データ。</p> <p>E 開発又は磨き上げた観光資源の数(累計) ※年度(4月～3月)での実態把握。</p>				<p>A 2017(平成29)年度の霧島市観光動向調査の「霧島市観光に対する満足度」の56%を基準として、5年間でプラス5ポイントの61%とする。</p> <p>B 2017(平成29)年の観光消費額目標値669億5800万円を基準として、5年間でプラス34億1500万円の703億7300万円とする。</p> <p>C 霧島市観光統計における観光客数(宿泊+日帰り)2017(平成29)年の目標値764万3600人を基準として、5年間でプラス38万9900人とする。</p> <p>D 霧島市観光統計における外国人宿泊者数の2017(平成29)年の目標値12万2000人を基準として、5年間でプラス7万4500人とする。</p> <p>E 2017(平成29)年度目標値の45本を基準として毎年2本ずつの増加を目指し、5年間でプラス10本とする。</p> <p>F</p>					

### 3 基本計画期間で解決すべき施策の課題(総合計画より)

本市は、山や川、海などの大自然や歴史・文化、温泉、食等の魅力ある観光素材を国内外にPRしながら、観光施設や体験メニュー等の新たな観光資源の開発など、受入体制の充実に取り組んできました。

このような中、口蹄疫や新燃岳の噴火、硫黄山火山活動及び熊本地震等の際は、地域や観光関係者が一体となって、各種キャンペーンやおもてなし活動など誘客促進につながる取組を進めてきました。

近年は、外国人観光客を含め、個人や小団体の旅行形態が主流となっていることから、観光客のニーズに合った観光素材の創出や活用、インターネットなどによる効果的な情報発信を進めるとともに、「観光地・霧島」としてのブランド戦略を明確にし、霧島の魅力を生かした「選ばれる」観光地づくりを進める必要があります。

また、2020(令和2)年開催の東京オリンピック・パラリンピックや鹿児島国体を見据え、引き続き、観光関係者、地域、市民の協働によるおもてなし活動を展開するとともに、インバウンド対策や二次アクセスの充実を図ることで、「また訪れたいくなる」、満足度の高い、快適な観光地づくりを進める必要があります。

### 4 施策の現状

#### ①2020年度施策の取組方針

- JR肥薩線沿線駅を中心としたウォーキングルート等の整備に向けた取組を行う。
- シティプロモーションの取組として、SNS等を活用した市民による魅力発信を推進するとともにメディアPRによる認知度向上を図る。
- 九州新幹線やJR在来線の利用促進及び観光客の誘致を図るため、市内各駅からの二次アクセスの確保や市内主要駅のバリアフリー化をはじめとする駅利用者の利便性の向上に資する取組を行う。また、観光客のニーズに応えるため、霧島連山周遊バスや妙見路線バス、霧島周遊観光バスの運行を継続するとともに、利用促進のための関係機関との協議や積極的なPRに取り組む。
- 宿泊を伴う観光誘客については、新型コロナウイルスの状況に応じて、関係機関の意見を収集しながら、大都市圏または隣県等、対象地域を考慮した上で、PR活動を実施する。
- 霧島ジオパークエリアを拡大するため、地球とのつながりの視点から、新たな観光資源の掘り起こしを行う。また、ジオツーリズムの活性化のため、旅行会社を対象としたツアー商品造成補助事業の実施とガイド養成のための企画・検討を行う。

#### ②2020年度の取組方針の達成状況

- 肥薩線沿線の周遊観光ルート整備について、県の「魅力ある観光地づくり事業」により、各駅を中心としたウォーキングコースを設定し、案内看板、道標、休憩施設の整備に向けた設計を行った。
- シティセールスミーティングを実施し、各部署における「売りたいモノ、コト」に関する情報の共有・一元化を図るとともに、それらの情報をもとに都市圏でシティセールス等を実施し、市の魅力を幅広く発信することができた。
- 単人駅構内のバリアフリー化を推進するため、JR九州が整備を進めてきたエレベーターやスロープ、多機能トイレの設置などに対する支援を行い、2021(令和3)年3月13日からこれらの設備の供用が開始された。また、ガイド付き特別運行や上野原縄文の森とのタイアップイベントを開催したほか、教員対象のモニターを実施し、平日臨時運行等のPRを行った。
- メディアキャラバン(東京地区)やシティセールス(広島地区・東京地区)を実施するとともに、テレビ、新聞・雑誌、WEBなど多数の媒体を通して本市の魅力を発信し、本市のPR、認知度向上に繋がった。
- エリア拡大の取組については、拡大エリアにおける地域資源を洗い出し、新規サイト候補地の掘り起こしを行った。また、ツアー商品造成補助事業については、2事業所から申請があったが新型コロナウイルスの影響によりツアーが中止となった。その他、ガイド養成については、2021(令和3)年度に新たなガイド養成講座を実施することとした。

#### 5 2021年度施策の取組方針

- 観光客等の受入態勢の充実及びJR肥薩線の利用拡大を図るため、県の「魅力ある観光地づくり事業」により、肥薩線沿線の周遊観光ルートの整備を進める。
- シティプロモーションの取組として、SNS等を活用した市民による魅力発信を推進するとともにメディアPRによる認知度向上を図る。
- 九州新幹線やJR在来線の利用促進及び観光客の誘致を図るため、市内各駅からの二次アクセスの確保を推進する。また、観光客のニーズに応えるため、霧島連山周遊バスや妙見路線バス、霧島周遊観光バスの運行を継続するとともに、利用促進のための関係機関との協議や積極的なPRに取り組む。
- 霧島ジオパークエリアを拡大するため、地球とのつながりの視点から、新たな観光資源の掘り起こしを行う。また、ジオツーリズムの活性化のため、旅行会社を対象としたツアー商品造成補助事業の実施とガイド養成講座を実施する。

#### 6 2022年度施策の取組方針

- 観光客等の受入態勢の充実及びJR肥薩線の利用拡大を図るため、県の「魅力ある観光地づくり事業」により、肥薩線沿線の周遊観光ルートの整備を進める。
- シティプロモーションの取組として、市民によるSNSやメディアによる情報発信力を活かしたPRを展開し、認知度向上を図る。
- 九州新幹線やJR在来線の利用促進及び観光客の誘致を図るため、市内各駅からの二次アクセスの維持・確保を推進する。また、観光客のニーズに応えるため、霧島連山周遊バスや妙見路線バス、霧島周遊観光バスの運行を継続するとともに、利用促進のための関係機関との協議や積極的なPRに取り組む。
- 霧島ジオパークエリアの新たな観光資源の掘り起こしやサイト保全を行いながら、ジオツーリズムの活性化のために旅行会社等を対象としたツアー商品造成補助事業及びジオガイドの能力向上のための研修等を実施する。

政策体系	政策No.	1	基本事業名	国内外の観光客の誘致	基本事業 主担当課	観光PR課
	施策No.	4				
	基本事業No.	1				

### 1 基本事業の目的、取組方針(総合計画より)

日本初の国立公園「霧島」をはじめ、本市特有の歴史や文化、豊富な温泉や食などの多種多様な観光素材、空港や鉄道、高速道路などが整備された、観光地としてのポテンシャルを最大限に生かすため、霧島市観光協会をはじめとする観光関係団体や地域と一体となった誘客活動を更に推進します。

また、国内外において本市の知名度を向上させるため、「観光地・霧島」のブランドの方向性を明確にするとともに、SNSなど市民による情報発信力の強化など、様々な手法による戦略的な情報発信の取組を推進します。

### 2 基本事業を取り巻く状況(対象者や根拠法令等)はどのように変化しているか、更に今後どう変化するか?

観光客については、国内外ともに団体客から個人客に旅行形態が変わりつつあることから、個人客向けに対する旅行商品の造成をエージェンツに対して促すとともに、インターネットなどによる効果的な情報発信を更に進める必要がある。

新型コロナウイルスの影響により、2021(令和3)年6月1日現在、鹿児島空港国際線において、定期便4路線はもとより、国際チャーター便を含め全ての路線が運休している状況にあることから、インバウンド・アウトバウンド観光が減少し国内観光への需要が高まることが見込まれるため、観光客の対象や地域など、ターゲットに合わせた効果的な情報提供・PR活動を行う必要がある。

なお、2020(令和2)年7月に鹿児島空港国際線ターミナルの増改築工事が竣工し、インバウンドをはじめとする国際線利用者の受入環境が整備されている。

### 3 2020年度基本事業の取組方針

■宿泊を伴う観光誘客については、新型コロナウイルスの状況に応じて、関係機関の意見を収集しながら、大都市圏または隣県等、対象地域を考慮した上で、PR活動を実施する。

■シティプロモーションの取組として、SNS等を活用した市民による魅力発信を推進するとともにメディアPRによる認知度向上を図る。

■地球とのつながりが感じられる場所とそれに関わる人々の暮らしを体験することができるジオツーリズムの活性化を図るため、旅行会社を対象としたツアー商品造成補助事業を実施する。

■日本・アジア・世界のそれぞれのジオパークネットワークを利用し、国内外からの誘客に向けたPR活動を行う。

### 4 2020年度の取組達成状況

■メディアキャラバン(東京地区)やシティセールス(広島地区・東京地区)を実施するとともに、テレビ、新聞・雑誌、WEBなど多数の媒体を通して本市の魅力を発信し、認知度向上に繋がった。

■SNSでの「キラシマイスター」等に関する投稿や、新聞、雑誌等での記事掲載により、新たな観光情報の魅力発信や認知度向上が図られた。

■ツアー商品造成補助事業については、2事業所から申請があったが新型コロナウイルスの影響によりツアーが中止となった。

■新型コロナウイルス感染症の影響により、日本・アジア・世界のジオパークネットワーク大会が中止となったため、十分なPR活動を行うことができなかった。

### 5 2021年度基本事業の取組方針

■霧島の認知度向上と誘客のため、宿泊を伴う関東・中部・関西等の大都市圏でのPR活動を積極的に行う。

■シティプロモーションの取組として、SNS等を活用した市民による魅力発信を推進するとともにメディアPRによる認知度向上を図る。

■地球とのつながりが感じられる場所とそれに関わる人々の暮らしを体験することができるジオツーリズムの活性化を図るため、旅行会社を対象としたツアー等の商品化を促進する。

■日本・アジア・世界のそれぞれのジオパークネットワークを利用し、国内外からの誘客に向けたPR活動を行う。

### 6 2022年度基本事業の取組方針

■霧島の認知度向上と誘客のため、宿泊を伴う関東・中部・関西等の大都市圏でのPR活動を積極的に行う。

■シティプロモーションの取組として、市民によるSNSやメディアによる情報発信力を活かしたPRを展開し、認知度向上を図る。

■地球とのつながりが感じられる場所とそれに関わる人々の暮らしを体験することができるジオツーリズムの活性化を図るため、旅行会社を対象としたツアー等の商品化を促進する。

■日本・アジア・世界のそれぞれのジオパークネットワークを利用し、国内外からの誘客に向けたPR活動を行う。

政策体系	政策No.	1	基本事業名	観光素材の創出と活用	基本事業 主担当課	観光PR課
	施策No.	4				
	基本事業No.	2				

### 1 基本事業の目的、取組方針(総合計画より)

本市の特性である海拔0メートルから1,700メートルにわたる海、山などの恵まれた大自然の魅力を生かし、着地型(体験型)の観光メニューや観光ルートの構築、地域の食材にこだわったご当地メニューの開発や提供など「五感に響く、魅力ある、選ばれる観光地づくり」を推進します。  
また、ガイドクラブなどの活動支援や観光素材の魅力を高める取組を進めるとともに、周遊観光の促進を図るため、広域観光ルートの開発や素材の活用を推進します。

### 2 基本事業を取り巻く状況(対象者や根拠法令等)はどのように変化しているか、更に今後どう変化するか?

- 日本ならではの文化や食、自然を生かした体験型のメニューが求められている。
- 宿泊に繋がる周遊観光を促進するため、広域的な観光素材の創出やルート開発が求められている。
- 観光客については、国内外ともに団体客から個人客に旅行形態が変わりつつあり、今後もその傾向が見込まれるため、個人向けの観光素材の創出と活用が求められている。
- 新型コロナウイルス感染拡大の影響により、海外を対象としたインバウンド・アウトバウンド観光が減少し国内観光への需要が高まることが見込まれる。全国的に観光誘客の取組が行われることから、本市の観光素材の磨き上げ、発掘、開発等を行い、他観光地との差別化を図る必要がある。

### 3 2020年度基本事業の取組方針

- JR肥薩線沿線駅を中心としたウォーキングルート等の開発に向けた整備を行う。
- 環霧島会議や錦江湾奥会議など広域的な連携組織において観光素材の創出と活用を行う。
- 霧島ガストロミー推進協議会においてブランド認定制度やご当地料理等の各種事業を実施するとともに、知名度を向上させるために動画やSNSなどのデジタルコンテンツを活用した情報発信を行う。
- 霧島ジオパークエリアを拡大するため、地球とのつながりの視点から、新たな観光資源の掘り起こしを行う。
- ジオツーリズムの活性化を図るため、環霧島管内の行政、民間の観光担当者向けの研修を企画し情報共有と素材発掘を図る。
- ジオガイドの能力向上と新たなガイド養成のための講座を企画、検討する。

### 4 2020年度の取組達成状況

- 肥薩線沿線の周遊観光ルート整備について、県の「魅力ある観光地づくり事業」により、各駅を中心としたウォーキングコースを設定し、案内看板、道標、休憩施設の整備に向けた設計を行った。
- 錦江湾奥会議において、錦江湾を活かした体験メニューの認知度向上や情報拡散に向けて、錦江湾ブルー・ツーリズム推進のためのウェブサイトの実装やインフルエンサー、メディア・旅行エージェント等の招聘、福岡地区における合同セールスを行った。
- ゲンセン霧島茶のパッケージを統一し、ブランディングを推進した。また、民間企業とのコラボ企画として、ファミリーマートが販売するおにぎりやゲンセン霧島茶のティーベアリングを実施するとともに、ファミリアンバサダー100人を対象にゲンセン霧島茶モニター試飲を実施し、SNS等で感想等を発信してもらうことで、知名度向上、販路拡大を図った。
- エリア拡大の取組については、拡大エリアにおける地域資源を洗い出し、新規サイト候補地の掘り起こしを行った。一部の候補地については、プロジェクトチームメンバーで現地確認を実施し、それぞれが持つ意味や価値を共有した。
- 環霧島管内の関係者を対象としたモニターツアーを実施し、地球の視点で地域の遺産を活かす事例の共有と、霧島が持つ多様かつ豊富な観光素材の活用方法を見出した。
- 霧島ジオガイドネットワークの活動を支援し、2021(令和3)年度に新たなガイド養成講座を実施することとした。

### 5 2021年度基本事業の取組方針

- 観光客等の受入態勢の充実及びJR肥薩線の利用拡大を図るため、県の「魅力ある観光地づくり事業」により、肥薩線沿線の周遊観光ルートの整備を進める。
- 環霧島会議や錦江湾奥会議など広域的な連携組織において観光素材の創出と活用を行う。
- 霧島ガストロミー推進協議会においてブランド認定制度やご当地料理等の各種事業を実施するとともに、知名度を向上させるために動画やSNSなどのデジタルコンテンツを活用した情報発信を行う。
- 霧島ガストロミー推進協議会において農林水産物のブランド認定に関する制度設計について検討する。
- 霧島ジオパークエリアを拡大するため、地球とのつながりの視点から、新たな観光資源の掘り起こしを行う。
- ジオツーリズムの活性化を図るため、環霧島管内の行政、民間の観光担当者向けの研修を企画し情報共有と素材発掘を図る。
- ジオガイドの能力向上と新たなガイド養成のための講座を実施する。

### 6 2022年度基本事業の取組方針

- 観光客等の受入態勢の充実及びJR肥薩線の利用拡大を図るため、県の「魅力ある観光地づくり事業」により、肥薩線沿線の周遊観光ルートの整備を進める。
- 環霧島会議や錦江湾奥会議など広域的な連携組織において観光素材の創出と活用を行う。
- 霧島ガストロミー推進協議会においてブランド認定制度やご当地料理等の各種事業を実施するとともに、知名度を向上させるために動画やSNSなどのデジタルコンテンツを活用した情報発信を行う。
- 霧島ガストロミー推進協議会において新たな農林水産物のブランド認定を制度化する。
- 霧島ジオパークエリアを拡大するため、地球とのつながりの視点から、新たな観光資源の掘り起こしを行う。
- ジオツーリズムの活性化を図るため、環霧島管内の行政、民間の観光担当者向けの研修を企画し情報共有と素材発掘を図る。
- ジオガイドの能力向上のための研修等を実施する。

政策体系	政策No.	1	基本事業名	利便性の高い観光地づくりの推進	基本事業 主担当課	観光PR課
	施策No.	4				
	基本事業No.	3				

### 1 基本事業の目的、取組方針（総合計画より）

国際線を有する空港所在都市としての強みを生かし、主要な交通結節点である空港や駅からの二次アクセスの強化を図ります。誰もが安心、快適に観光できるよう、施設などのユニバーサルデザイン化や多言語表記による案内板の設置、Wi-Fi及び超高速ブロードバンド環境の整備を促進します。

さらに、増加傾向にある外国人観光客の受入体制を強化するとともに、本市特有の自然、景観、歴史、文化を生かした観光地づくりを推進します。

### 2 基本事業を取り巻く状況（対象者や根拠法令等）はどのように変化しているか、更に今後どう変化するか？

- 国内外ともに個人や小グループの旅行者が増加し、貸切バスを利用した物見型観光から自ら観光地や宿泊地を選択し、レンタカーやバス、鉄道を利用したフリーの観光が増加している。
- 外国人観光客が増加傾向にあり、超高速ブロードバンド環境の整備や外国語表記を掲載した看板、外国語変換ツール、パンフレットなどの充実が求められている。
- 新型コロナウイルス感染拡大の影響により、海外を対象としたインバウンド・アウトバウンド観光が減少し国内観光への需要が高まることを見込まれる。観光客が周遊や滞在する際に、安心安全な環境を提供できるよう、新しい生活様式に対応した受入体制の整備が必要である。

### 3 2020年度基本事業の取組方針

- 九州新幹線やJR在来線の利用促進及び観光客の誘致を図るため、市内各駅からの二次アクセスの確保や市内主要駅のバリアフリー化をはじめとする駅利用者の利便性の向上に資する取組を行う。また、観光客のニーズに応えるため、霧島連山周遊バスや妙見路線バス、霧島周遊観光バスの運行を継続するとともに、利用促進のための関係機関との協議や積極的なPRに取り組む。
- 霧島ジオパークエリアを拡大することに合わせ、地球とのつながりの視点から、新たな観光資源の掘り起こしを行い、案内看板の設置について検討する。

### 4 2020年度の取組達成状況

- 隼人駅構内のバリアフリー化を推進するため、JR九州が整備を進めてきたエレベーターやスロープ、多機能トイレの設置などに対する支援を行い、2021（令和3）年3月13日からこれらの設備の供用が開始された。また、霧島周遊観光バスを利用した取組として、ガイド付き特別運行や上野原縄文の森とのタイアップイベントを開催したほか、教員対象のモニターを実施し、平日臨時運行等のPRを行った。
- 拡大エリアにおける新規サイト候補地の掘り起こしを行った。案内看板設置については、2021（令和3）年度に既存サイトの一部を更新することとした。

### 5 2021年度基本事業の取組方針

- JR肥薩線沿線の活性化を図るため、駅を中心としたウォーキングコースを整備し、新たにマップ等を作成し、観光客の周遊を促す。
- 九州新幹線やJR在来線の利用促進及び観光客の誘致を図るため、市内各駅からの二次アクセスの確保を推進する。また、観光客のニーズに応えるため、霧島連山周遊バスや妙見路線バス、霧島周遊観光バスの運行を継続するとともに、利用促進のための関係機関との協議や積極的なPRに取り組む。
- 2022（令和4）年度に霧島ジオパークエリアを拡大するため、地球とのつながりの視点から、新たな観光資源の掘り起こしを行い、案内看板を設置する。

### 6 2022年度基本事業の取組方針

- JR肥薩線沿線の活性化を図るため、駅を中心としたウォーキングコースのマップ等を作成し、観光客の周遊を促す。
- 九州新幹線やJR在来線の利用促進及び観光客の誘致を図るため、市内各駅からの二次アクセスの維持・確保を推進する。また、観光客のニーズに応えるため、霧島連山周遊バスや妙見路線バス、霧島周遊観光バスの運行を継続するとともに、利用促進のための関係機関との協議や積極的なPRに取り組む。
- 霧島ジオパークエリアの新たな観光資源の掘り起こしや案内看板を設置する。